

厚生労働省三重労働局発表

令和4年8月29日

テレビ・インターネット 8月29日記者会見終了後解禁

新聞 8月30日朝刊解禁

【照会先】

三重労働局職業安定部職業安定課

課長 藤木 真保

課長補佐 堀 保

地方労働市場情報官 木下 欣也

(電話) 059 (226) 2305 (内線 228)

報道関係者 各位

## 「雇用情報モニター報告集計結果(令和4年度第2・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和4年度第2・四半期(令和4年7月～9月)実績見込み及び次期(令和4年10月～12月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

### 調査結果 主な項目の概要

#### ○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が39.3%で前期と比べ増加、「減少」が14.8%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は24.5となり前期と比べ18.0ポイント上昇。次期見通しは4.9で下降予想。

#### ○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が33.3%で前期と比べ増加、「減少」が22.2%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は11.1となり前期と比べ7.9ポイント上昇。次期見通しは▲6.3で下降予想。

#### ○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が23.0%で前期と比べ減少、「減少」が11.5%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は11.5となり前期と比べ0.4ポイント上昇。次期見通しは0.0で下降予想。

#### ○ 設備投資の見込み

「ある」が31.7%で前期と比べ7.9ポイント増加、「ない」が34.9%で前期と比べ9.5ポイント減少。D I(「ある」-「ない」)は▲3.2で前期と比べ17.4ポイント上昇。

#### ○ 従業員の過不足判断

「過剰」は0.0ポイントで前期と比べ減少、「やや過剰」は4.0ポイントで前期と比べ減少、「不足」は12.7ポイントで前期と比べ増加、「やや不足」は25.4ポイントで前期と比べ減少。D I(「過剰」-「不足」)は▲34.1となり前期と比べ7.6ポイント下降(不足判断が増加)。次期見通しは▲30.9で「不足」判断は減少の予想。

#### ○ 雇用調整の状況

実施事業所数は25事業所(39.7%)で、前期の25事業所(39.1%)と同数。

## ○資料

別添 「令和4年度 雇用情報モニター報告集計」

## ○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和4年度第2・四半期（令和4年7月～9月）実績見込み及び次期（令和4年10月～12月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業3、製造業46、運輸業2、小売業8、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業63社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

# 令和4年度 雇用情報モニター報告集計

令和4年度 第2・四半期  
三重労働局職業安定部職業安定課

令和4年度第1・四半期（4年4月～6月 以下前期）においては、多くの指標のD Iがプラスとなり、第2・四半期（4年7月～9月 以下今期）においても、多くの指標のD Iがプラスとなりました。

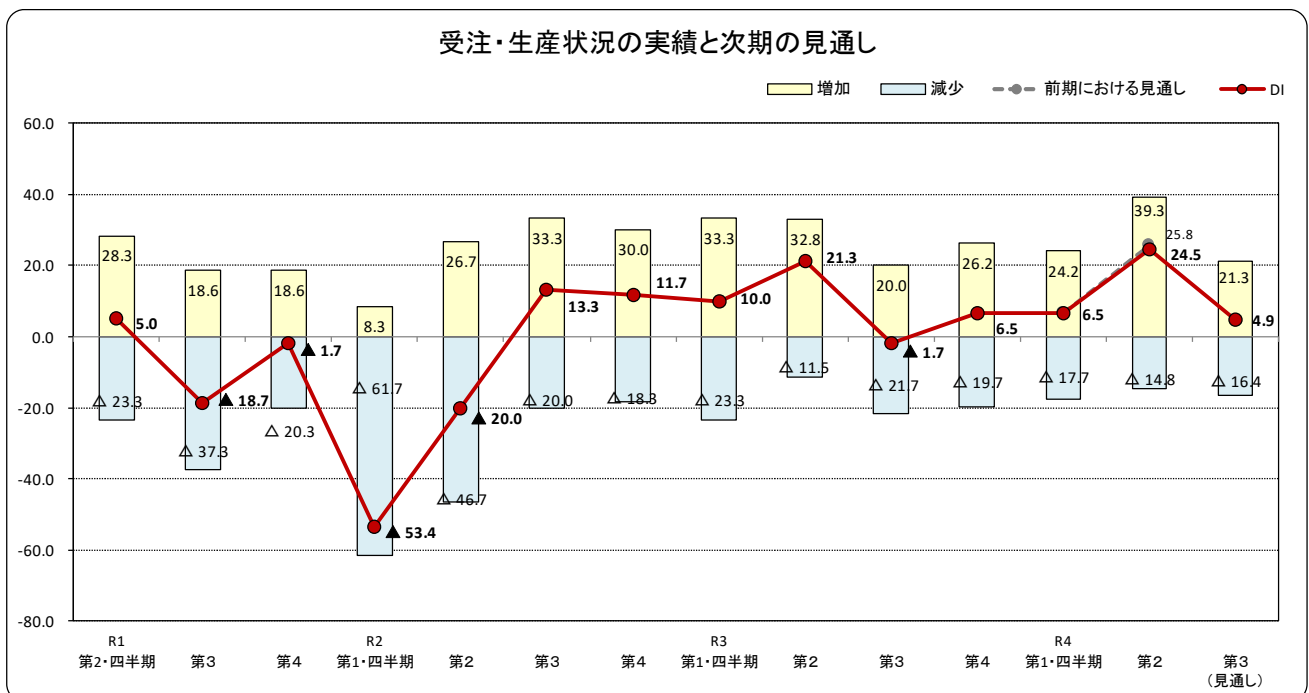
第3・四半期（4年10月～12月 以下次期）の予想においては、多くの指標で下降の見通しとなっています。

## 1. 受注・生産動向について

### 【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が39.3%、「減少」が14.8%で、D I（「増加」－「減少」）は24.5で前期と比べ18.0ポイント上昇し、3期連続でプラスとなりました。

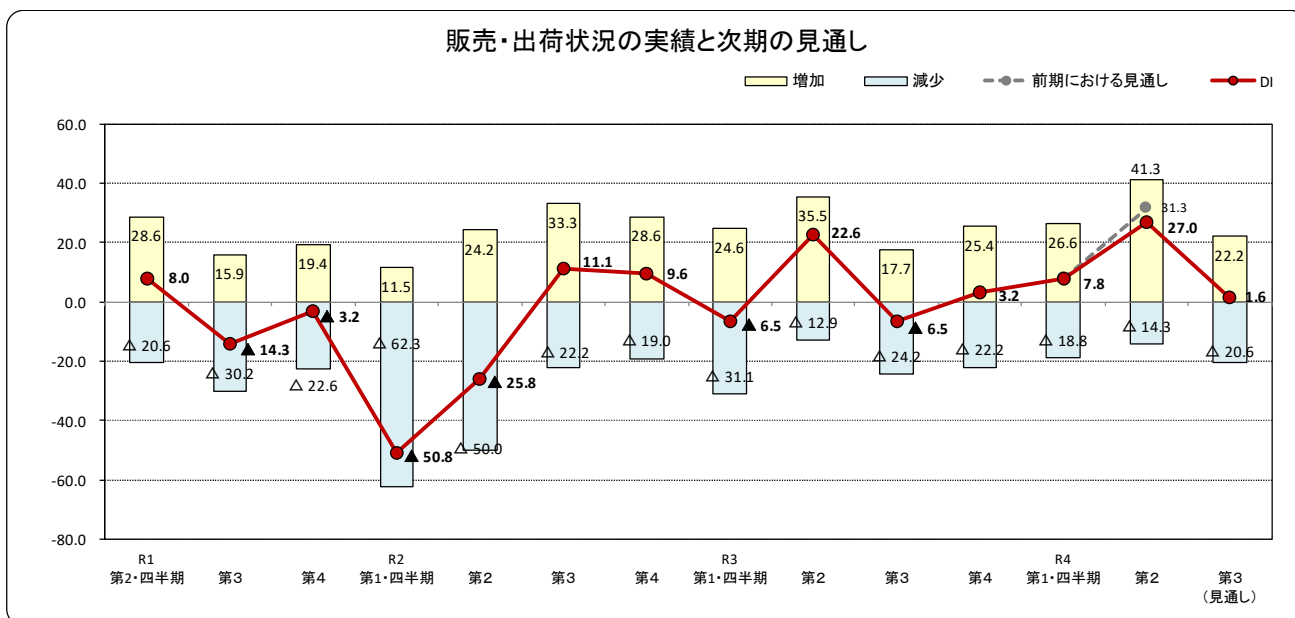
次期の見通しについては、D Iは4.9で、下降する予想となっています。



### 【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が41.3%、「減少」が14.3%で、D I（「増加」－「減少」）は27.0で前期と比べ19.2ポイント上昇し、3期連続でプラスとなりました。

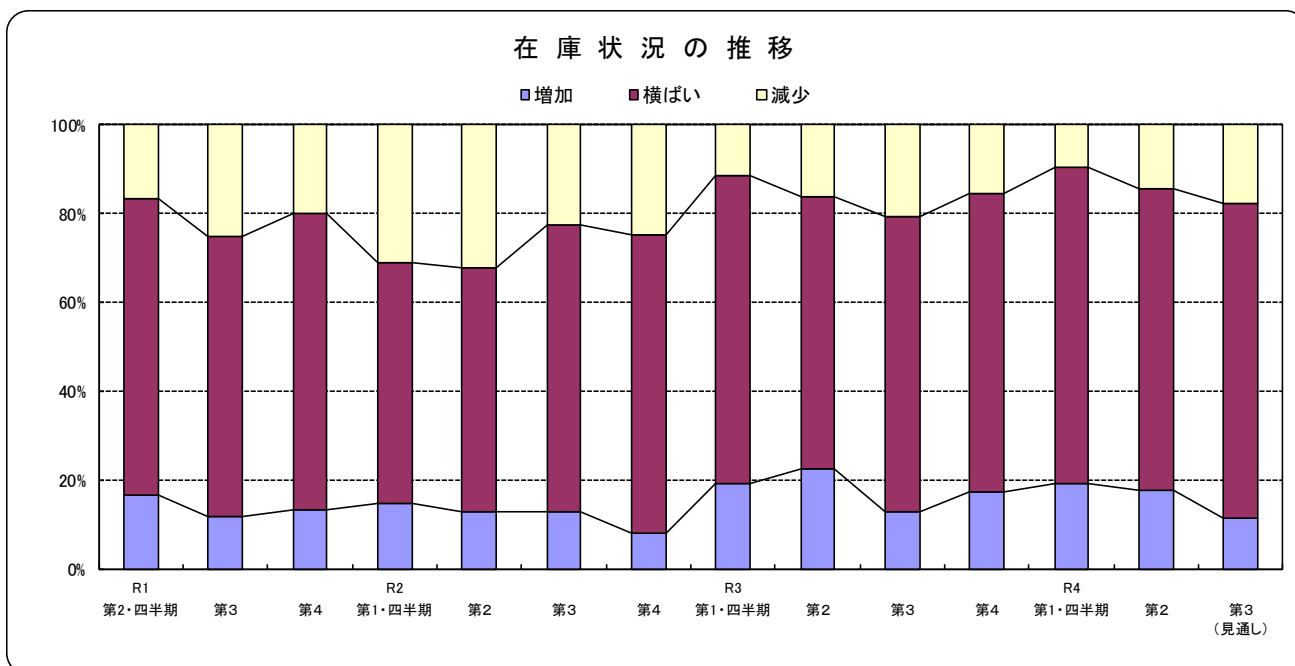
次期の見通しについては、D Iは1.6で、下降する予想となっています。



### 【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が減少、「減少」が増加、50期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「増加」が減少、「減少」が増加する予想となっています。

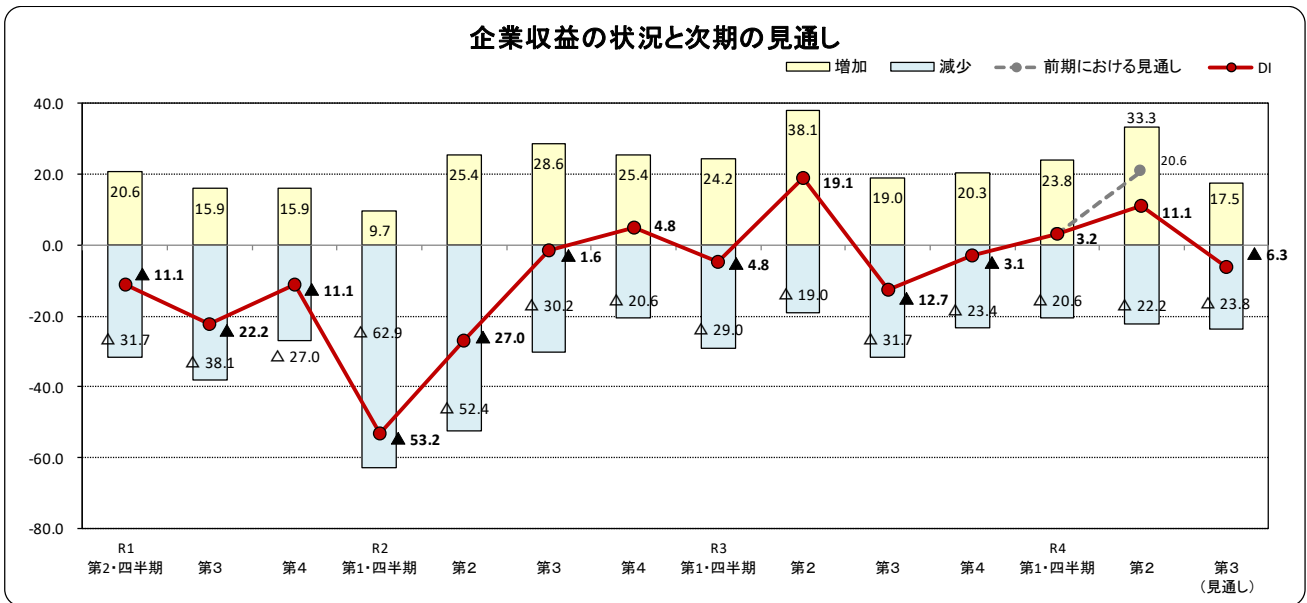


## 2. 企業活動の状況について

### 【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が33.3%、「減少」が22.2%で、D I（「増加」－「減少」）は11.1となり、前期と比べ7.9ポイント上昇し、2期連続でプラスとなりました。

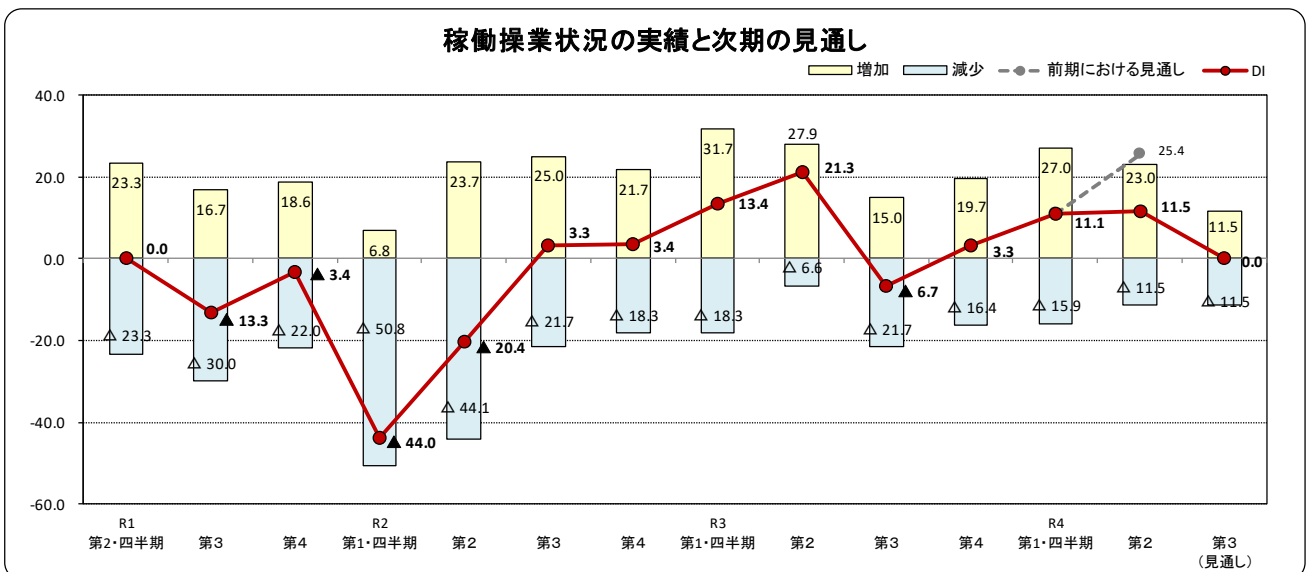
次期の見通しについては、D Iは▲6.3で、下降する予想となっています。



### 【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

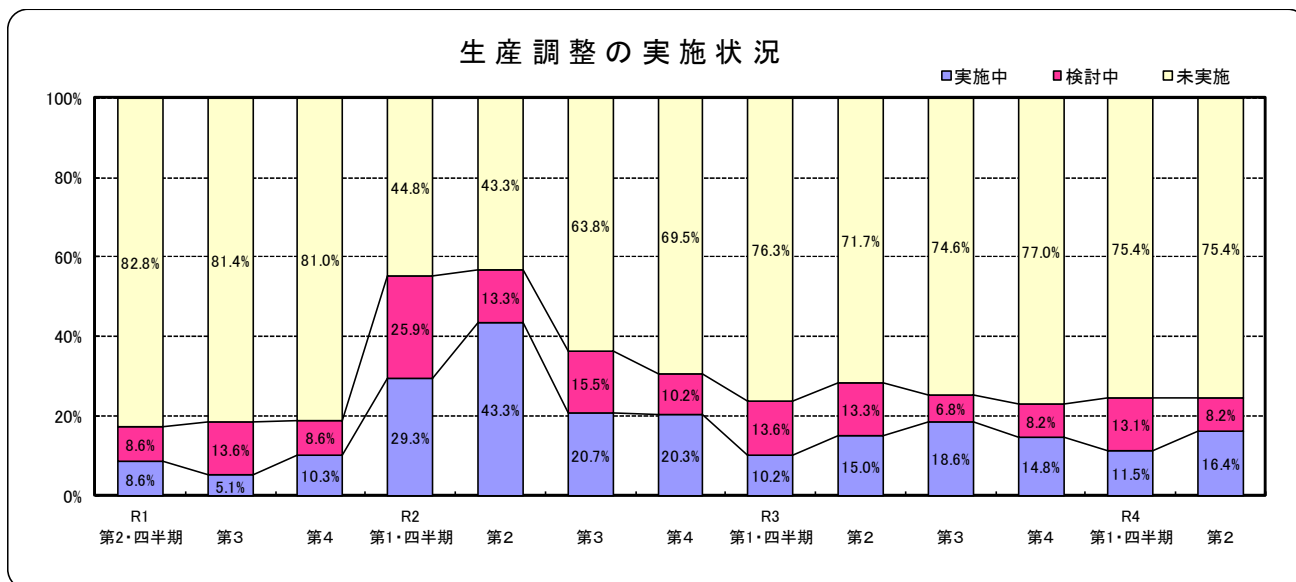
今期の稼働操業状況では、「増加」が23.0%、「減少」が11.5%で、D I（「増加」－「減少」）は11.5となり、前期と比べ0.4ポイント上昇し、3期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは0.0で、下降する予想となっています。



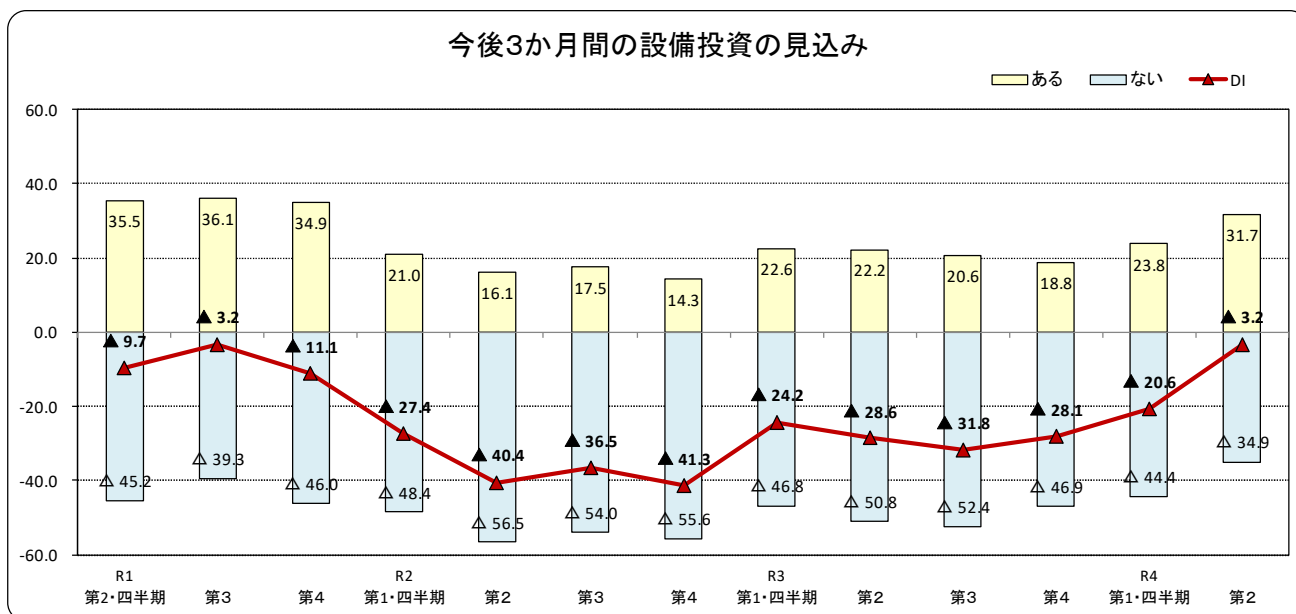
### 【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は75.4%で前期と同数値、「検討中」は8.2%で4.9ポイント減少、「実施中」は16.4%で4.9ポイント増加となりました。



### 【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は31.7%で前期と比べ7.9ポイント増加、「ない」とする事業所の割合は34.9%で前期と比べ9.5ポイント減少、D I（「ある」-「ない」）は▲3.2となり、前期と比べ17.4ポイント上昇しました。

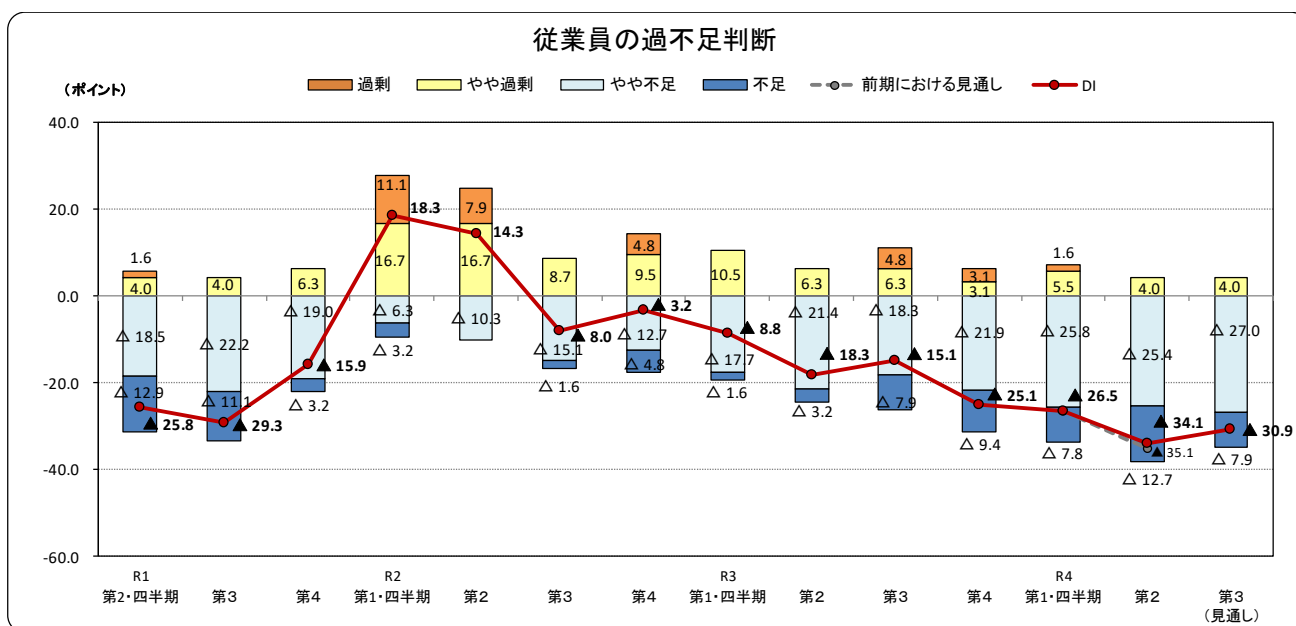


### 3. 雇用動向について

#### 【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は 0.0 ポイントで前期と比べ 1.6 ポイント減少、「やや過剰」とする事業所は 4.0 ポイントで前期と比べ 1.5 ポイント減少、「不足」とする事業所は 12.7 ポイントで前期と比べ 4.9 ポイント増加、「やや不足」とする事業所は 25.4 ポイントで前期と比べ 0.4 ポイント減少し、D I（「過剰」－「不足」）は▲34.1 となり、前期より 7.6 ポイント下降（不足判断が増加）し、8 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

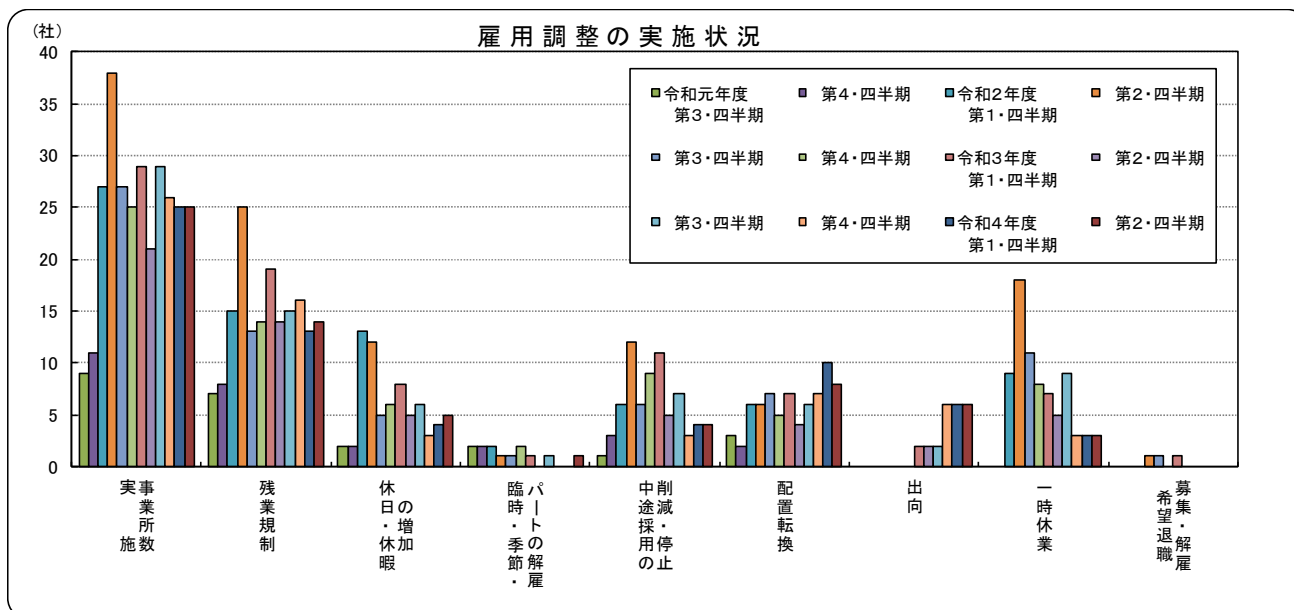
次期の見通しについては、D I は▲30.9 で、不足判断が減少する予想となっています。



#### 【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 25 事業所 (39.7%) で、前期の 25 事業所 (39.1%) と同数となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
令和元年度												
第3・四半期	62	52	1	9	7	2	2	1	3	0	0	0
第4・四半期	62	51	0	11	8	2	2	3	2	0	0	0
令和2年度												
第1・四半期	61	25	9	27	15	13	2	6	6	0	9	0
第2・四半期	59	18	3	38	25	12	1	12	6	0	18	1
第3・四半期	63	33	3	27	13	5	1	6	7	0	11	1
第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0
令和3年度												
第1・四半期	62	30	3	29	19	8	1	11	7	2	7	1
第2・四半期	63	34	8	21	14	5	0	5	4	2	5	0
第3・四半期	63	32	2	29	15	6	1	7	6	2	9	0
第4・四半期	64	32	6	26	16	3	0	3	7	6	3	0
令和4年度												
第1・四半期	64	36	3	25	13	4	0	4	10	6	3	0
第2・四半期	63	35	3	25	14	5	1	4	8	6	3	0



<主なコメント>

- コロナ、ウクライナ戦争、円安等の影響で、燃料、原材料、資材、運送費等全てで大きく値上がりしており、コスト面・収益面で影響が大きい。今後の生産活動にどれだけの影響が出るのか予想が立たず、かつてない危機感がある。（複合サービス事業）
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、在宅サービスを中心に影響が発生している。（医療、福祉）
- 国内受注はコロナ前の水準に戻っていないが、輸出が好調で国内分をカバーしている。原材料や資材の値上がりが著しく、商品に転嫁せざるを得ない状況にある。輸入原材料の船便の遅れ等で、在庫不足や急な操業など生産計画に影響を与えている。（製造業）
- 半導体を中心とした部品の供給不足により納入先の生産が一部停止し、生産量減・在庫増の影響を受けている。原油高騰に伴う輸送費増やウクライナ戦争の影響で、業績に関しても不透明。（製造業）
- 部材の入手難による納期遅延、材料費や輸送費、電力量等の価格高騰により収益悪化。納入先への価格値上げ交渉を始めている。（製造業）
- コロナ感染症の終息が見えない中、慢性的な人手不足が続いている。（卸売業、小売業）
- 米中貿易摩擦やコロナ禍で先送りされた設備投資の再開に加え、先端技術向けの生産設備の増強も追い風になり需要の回復は継続している。中国のロックダウンやウクライナ危機により当社のサプライチェーンに影響が出たものの、需要は旺盛。（製造業）
- 上海のロックダウンにより上海工場は約2ヶ月操業停止し、国内販売にも影響した。資源・エネルギー価格上昇に伴う原料、電気料金の値上がりが収益を圧迫。上昇傾向は来期も続く見通しであり、経営環境は一段と厳しさを増している。（製造業）
- 電気代の高騰が予測を大きくオーバーし、営業利益に大きく影響している。（卸売業、小売業）
- 納入先の稼働がコロナ蔓延、部品調達の兼ね合いで不安定なため、当期・次期の計画はかなり流動的な状況。（製造業）
- 半導体不足等の影響が続いており、ロックダウン解除後も各取引先にて部品在庫が枯渇しているため、不透明な状況が継続している。（製造業）